

一九七七年二月一日第三種郵便物認可

発行所 社会通信社 発行人 滝野 忠

東京都渋谷区本町六丁目二八の二コーポル幡ヶ谷九〇四 電話(03)3377-4649 FAX(03)3299-5367
振替 〇〇一〇〇一〇〇一九一五八四三二 労金 中央労金本店 No 1154163

購読料 月額 600円 6カ月前納制

〈もくじ〉

■巻頭言■

福田官房長官の辞任と政局

..... 2

アメリカ大統領選のゆくえ

..... 3

ジャーナリストに自覚を問う

羽川 健治..... 5

― 校長先生の自死、差別と教育問題 ―

小泉、石原とその憲法観

編集部..... 8

― 国家、そして憲法改悪(二) ―

ストライキで闘いぬいた!

..... 11

― 関東私鉄三組合 ―

◇資料◇ 闘争宣言(相模鉄道労働組合)

..... 12

巨大ジャーナリズムの憲法観

..... 12

読者からのおたより

..... 13

旬刊 社会通信

NO. 901

二〇〇四年五月二日号

二〇〇四年五月二日発行
(毎月一日・二日・二日三回発行)

福田官房長官の辞任と政局

国民年金未納額は約八兆円。未納者・未加入者は約四〇〇万人で、対象者の約四割にのぼる。未納者・未加入者の多くは払いたくても払えないのだ。それに政府・厚労省の年金財政破綻のキャンペーンと、それに何らの疑問も付すことなく伝える大商業紙の報道が、「年金なんてかけたつてムダ。還つてこないんだから」と年金不信に拍車をかけ、金持ち連中のみならず、貧乏人ですら「個人年金の方が得」と、年金にソッポを向く若者をふやしていく。

僕らが二〇代、三〇代の時、年金なんて考えもしなかった。社会は洋々と開けていたからだ。出世を夢見る者、事業を大きくしたい者、社会主義という新しい社会体制を切り拓くことを人生の課題とした者。そこには理想と希望がみなぎっていた。しかし、現代という時代は夢、希望、理想を、国家主義、管理と統制という狭い狭い枠に押し込めてしまった。こんな時に起きたのが、法をつくり国民年金加入を呼びかける国会議員たちの国民年金未納問題だった。社会保険庁がキャンペーンに起用した女優が未払いだったことに、政治家たち、政治を取りしきる内閣の大番頭、福田官房長官は「社保庁はたるんでる」と切つて捨てた。

そういったご本人たちが国民年金に加入していなかった！ 政治への不信は大きく強く、深く、なった。このまま風化しざるのかと思つていたところ、とつじよ内閣の大番頭が「不信を招いたことに責任をとる」と辞任した。それも、ウソをつきとおし年金改悪で得体の知れぬ与野党合意を発表した直後にある。内閣官房長官は、政治の裏と表を知りつくす立場にある。現内閣官房長官の福田は森内閣以来、現在の小泉内閣を取り仕切つてきた古強者。突然の辞任にはウサン臭さがつきまとう。

自民は年金問題で保険料値上げ、給付率引き下げを求め、民主は年金制度の一元化、基本部分の国庫負担、財源を消費税に求めた。財界はといえば、値上げで企業負担が増えるから民主案支持が構図だ。民主の最も大きな支持基盤はユニオン連合。その連合は年金問題で財界と「共闘」する。どつぷり労資運命共同体に浸（ひた）つた連合は、労働者、「市民」ではなく資本の立場から今回の年金改悪に反対しているにすぎないのだ。

民主は年金改悪阻止でスキャンダル合戦に討つて出た。ところがである！ 国民年金を支払っていないのは閣僚ばかりか党首の菅、前党首の鳩山もそうであったことが発覚した。鉄砲玉が討つた方にも向かつてきた。機先を制するかのように福田は辞任表明。菅は進退窮まった。弁明にこれつとめた。福田は己がやめることによつて、烏合の政党を道連れにしたのである。

民主には強い基盤はない。地方議員は多くなく、国会議員は自民の小沢派・鳩山派、旧民社、旧社会の派閥が競い合う。とくに、若い国会議員は水に浮かぶ泡沫（うたかた）のようなもの。民間政治臨調の肝いりでつくられた松下政経塾出身者はそうである。菅は世論に迎合する民主党議員の手で代表を奪われた。菅の代表辞任どうのこうのにかかわらず政治不信はさらに強まる。目前の参院選への関心はうすれるばかりで、その結果、組織力ある現与党が浮上する。大政翼賛政治は、こうしてさらに強まっていく。

アメリカ大統領選のゆくえ

大統領選としくみ

アメリカ大統領選挙は四年に一回、夏のオリンピックの年の十一月におこなわれる。大統領選挙は最大のお祭りだ。候補指名行事は一年余にもおよぶ。選挙年末から選挙年始めにかけての黨員集会と予備選挙。七月、八月の民主、共和両党の党大会。ここで正副大統領候補が決定されてから、大統領選は本番。選挙キャンペーン開始である。

ブルジョア民主制にあつて選挙とは金、選挙資金の多寡が勝負となる。金でマスコミを買収するのである。すでに候補に決定した共和党ブッシュ二億ドル、民主党ケリー一億ドルもの巨費が一般投票—投票日は十一月の第一月曜日の翌日の火曜日が決められているから、今回大統領選では十一月二日—めざし投入される。一般投票は「大統領選挙人」を選ぶ間接選挙で、大統領選挙人の総数は連邦上下両院議員数（全米五十州で上院百、下院四百三十五の計五百三十五人）と、連邦議員のいない首都ワシントンに与えられた三を加えた計五百三十八。各州単位で、最多票を得た候補者がその州の選挙人全員を独占する「勝者総取り」方式だ。

ちなみに各州選挙人は最小三から最大四十五であり、大票田のニューヨーク州四十一、カリフォルニア四十五、テキサス、ペンシルベニア二十七、カンザス二十六、オハイオ二十五の獲得をめぐり死闘がくり抜げられる。選挙参謀の使命はこれらの州をいかに制するかで、当選の暁（あかつき）には、彼らは政府高官に出世する。

ブルジョア民主共和制、議会制民主主義制の形態はさまざまで、議院内閣制を憲法で定める日本のような事例もあれば、アメリカは、全国民の間接選挙と選挙人投票を通じて選ばれた大統領が、政府の長で軍最高司令官として、「キャピタル・ヒル」と呼ばれる議会上下院に「拒否権」を行使できる絶対的権力をもつ。民主共和制は旧い支配階級であった王侯・土地貴族にたいし、新しい支配階級である資本が自然発生的につくり出した統治形態であり、各国の歴史性—被支配階級の伸長度—に規定されている。

保守とリベラル

アメリカは一四九二年のコロンブスによるアメリカ大陸発見後、西欧人によつて開拓イギリスの植民地国家として生まれた。アングロサクソンがアメリカに入植したのは、一七世紀に宗教弾圧を逃れ、清教徒が移住したことによる。北アメリカ大陸では入植したアングロサクソンが原住民を駆逐、屠殺、虐殺し国土を拡大する一方、支配者としてのイギリス総督に代表される統治者と「独立」戦争を闘った。

アメリカでは、したがつて旧いヨーロッパ諸国の伝統だった保守「貴族」層は存在せず、「身分制」も稀薄だった。強い自由主義、競争主義が支配した。それは一七七六年の独立宣言、独立宣言の草案にも擬せられるヴァージニアの権利章典（ヴァージニア人民の代表が、完全にして自由なる会議において制定した権利の宣言。その諸権利は政治組織の基礎として、人民およびその子孫に属するものである。）に明瞭に見てとることができる。

アメリカ自由主義とは、フランクリン自伝などから考えると、①個人は国家の先にある、

②生存の権利を国家から守る、③個人の自由な経済活動、④「適者生存」のとう汰の法則、⑤個人の自由の發達を内実とするものであり、これがアメリカで形づくられた「保守」主義だ。

アメリカの二大政党制はこのような歴史のなかでつくられた。一八二〇年代生まれた民主党は南部の大地主（綿花のプランテーション、黒人奴隸主）と西部農民を基盤とし、州権と低関税（自由貿易）を主張した。共和党は一八五四年に連邦制を主張する北部の産業資本家、奴隸制反対の諸勢力、西部の一部農民を基盤とした。奴隸制という古い搾取に反対し、「人民による人民のための人民の政府」を掲げ南北戦争（一八六一―六五年）をたかかったリンカーンは共和党であり、南北戦争勝利でアメリカは連邦制を確立した。

民主党は南北戦争まで政権をとりつづけ、共和党は南北戦争後一九三〇年代の大恐慌の時期までほぼ政権を独占しつづけた。二大政党に大きな変化が起きたのは一九三〇年代の大恐慌とともに民主党のフランクリン・ルーズベルト大統領がニューディール政策―ルーズベルト連合と呼ばれた労組、南部、黒人、ユダヤ人など新しい支持基盤を確立―以降のことである。民主党は「リベラル」、共和党は「保守」との風評の背景である。

アメリカという国

二つの党の支持基盤、垣根はあいまいである。共和党は民主党に比べれば独占資本の資金援助に多く負っている。しかし、それも程度の差であり決定的に異なるわけではない。民主党が労組に支持されていることにその差を見出すことができるくらいだ。しかし、労組の態度はどちらかといえば時の政府の政策への反発にあり、ヨーロッパの社会民主主義政党のように「強固な同盟」を結んでいるわけではけつてない。

移民問題でもそれはいえる。アメリカには合法・非合法ふくめ年に二百万人の移民が流れ込む。これまで最大だった黒人は人口構成比で一二％を割り込み、ヒスパニックと呼ばれるラテンアメリカ系の人びとが一三％を占めるまでになった。中国、韓国などアジア系民族も四％に近い。白人はといえば七〇％強にまで落ち込んでいる。

大統領になるためには白人以外の票を一般投票でどれだけ獲得できるかが、勝負の別れ道になり、民主党⇨黒人⇨リベラルとのレッテルは通用しない。こうして、共和、民主の支持基盤、したがって政策もますます似かよったものになり、「保守」二党制の様相を強める。それはちやうど、日本の自民と民主と瓜二つといって過言でない。昔が辞任し、だれが代表になると小泉君の自民党と根本的な政策上の違いはないのと同じである。

政策に違いはないのであるから、選挙の争点はスキャンダル合戦となる。勝つための最大の戦術が敵失とスキャンダルの宣伝、暴露である。民主党のケリー君はブッシュ君がイラクで「やぶ」に踏み込んでしまったことを強く非難する。虐待事件、増えつつける戦死者、世界に拡大するテロ。そしていつこうに減らない失業者群。ブッシュはこれ弁明に努め、事態の沈静化に必死になる。これが世界政治の焦点であるイラク、アフガニスタン、そして中東情勢をめぐるポイントである。

ブッシュは今は受け身だ、ケリーが攻めている。しかし、アメリカは大統領を中心にくつする国だ。戦争という「非常時」は選挙キャンペーン―九月上旬の祝日「レイバデー」以降―が進むにつれブッシュへの支持が高まること予想される。アメリカ人にとつて、ブッシュ敗北は、「戦争の敗北」「アメリカの敗北」と映る。

ジャーナリストに自覚を問う

― 校長の自死、差別と教育問題 ―

二月二〇日、奈良県天理市立二階堂小学校校長が、定年退職まで残りわずか一ヶ月余りを残して自らの命を絶った。あわせて後日、一男性教員が児童達と引き裂かれ教育研究所へ行かざるをえない事象が発生した。

事の発端は二階堂小学校が近くの二階堂養護学校と先進的なとり組みとして交流学习をおこなっていたが、昨年五月二三日に取り組まれた小学校側の事前指導の中で「しようがい」児に對して差別発言があったとある全国紙が二月十三日にセンチシヨナルに報道したことに始まった。以下は羽川氏の抗議と怒りの文章である。

(編集部)

私は四年前、五五歳でもって中学校教員三三年間に終止符を打った者です。この度、天理市内の小学校で差別事件があったとの報道を注意深く見つめて参りました。それは、若きより多くの教職員仲間とともに、今をもっても、部落差別撤廃をはじめとする反差別の人権教育の深まりと広がり求め、しかも最大の教育条件である教職員の生活と働きやすい職場の確立を目ざして取り組んできた者の立場においてでした。勿論その活動を県内に広くやってきた訳ですから、当該の西辻先生をはじめ天理市内でたくさん教職員と懇意にさせてもらっています。そういう立場の者であることをまず述べておきます。

事態を正確にとらえられたのですか

さて教職員といえども万能でなく、いろいろ反社会的犯罪や物議をかもしす事件を起こし、時にはマスメディアに取り上げられ、教育への信頼を失墜している事実の多いことに苦悩しています。しかし、現場は人間関係が極めて正常でなければ成り立たない完璧を求められる所ゆえ、その努力にも拘らず現出する事象の内実は大変深刻なものです。教職員の倫理は常に高くあらねばなりません、今日の社会に現れている殺人事件をはじめとするあらゆる犯罪の根底に、失業・貧困や人間疎外をもたらす多くの要因があることを思えば、しかもその奥に「金儲け主義」を至上とする大競争が社会を最も支配していることを鑑みれば、教職員といえどもその影響外にいるとは断言できません。

ことさら今日の現場には目を追うごとに「仲間づくり」「集団づくり」より「能力主義」が優先され、これは文部科学省をして徹底的に教職員と生徒たちに押しつけられています。根底に「経済大国」「軍事大国」を目指す政財界の思いがあり、「一部の超エリートと大多数の柔順な労働者づくり、戦場を望む人間づくり」があるのです。この人間性を押しつぶす作用が悶々とする学校現場を作り、特に子どもを屈折させ荒廃をもたらしています。それに対峙している教職員や保護者の悩みは大変なものです。

いよいよ本論に入りますが、貴方たちは、部落解放運動の歴史を知っておられますか。部落の人に対して差別事象が発生すれば、なら法的に救済措置のない部落大衆にとつて糾弾は生存権とも言えるものです。しかしこれは一朝一夕に認知されたものではないのです(今でも誤解をしている人がいます)。糾弾はまずその前に確認会が大衆の参加の中で何回も持たれます。そして差別事象として誰しも認める時のみ、差別事件として糾弾に持ち込まれるのです。それも差別事件の真の背景(原因)を、大衆でもって明らかにする方向で行われます。

つまり多くの人々の学習の場として展開されるのです。激しい言葉が飛び交いますが、それは被差別者の心の叫びであり、それゆえ一層人々の心を打ち、これ程、聞く者にとつ

て自らの内面の点検を迫られることはありません。(何百人・何千人の参加者の中で厳しく展開される糾弾であつても誰一人自らの命を捨てた人はいません。何故でしょうか。そこには真実と客観性が根太く存在しているからに違いないと思います。)

このように考えた時、今回の現象に関わった人達のその言葉や行動の背景を、貴方たちはどこまで知り、しかも分析したのでしょうか。すべての人々に貴方たちが報道したように差別事件として認知してもらえる自信がありますか。勿論、差別はされた者が決定権を持つという原点を知ったうえででの問いかけです。該当の生徒に対応した西辻先生に不十分性があったかもしれません。しかしどのようなルートで貴方たちのもとへ伝えられたのか。お母さんの教員に対する姿勢。職場の中にお母さんと懇意にしている教員がおり、これがしばりとなつてこの件で一切会議が持てなかつたこと。その教員と西辻先生との関係。お母さんが自分の子供にどのような思いや希望を持ち、実際どう育てようとしていたのか。そして子どもたちの思考形態はどうなのか。つまり今回の事象の解明に関してのみ言及すると、常に攻撃対象を持ちたいという意図があるのかないのかです。正確にはお母さんにしむけられている側面がないかどうかです。

一つのヒントとしてお母さんとお父さんに今回の事象で受け止め方が違うと聞いています。今回は勿論、今までも三回昼夜を問わず電話や学校への非難があり三人の教員が苦しみにあつて、これを考慮して欲しいところです。

私の体験ではこんなことが

私も不本意ながら幾つかの体験をしています。私の自家用車が男子生徒に蹴られ破損した際、私は「君はどうしてこのような事件を起こしたのか自分自身をゆっくり点検して欲しい」と指導しました。生徒は中学校三年生でありこのような問いかけの通じる生徒でした。また私は人に対して上記したような見方をしていますから当然の指導でした。しかし人格を持つ相手のいることですからすべて適切とは思っていませんが、このことの善し悪しを問いかければ、最早この社会に学校自体存在しえようもないと思います。その程度の許容は認められてもいいと思います。しかし深夜に保護者から電話があり「すぐ来い」とのことです。そして何うと「お前は精神分析をする免許を持つているのか」と問い詰められ、昼夜にわたり自宅や学校へ抗議の連続でした。結局、管理職や同僚の暖かい意見を入れ、謝罪と弁償を免除することで落ち着きました。

また学年代表をしていた時、数名の教員が、「一〇〇点採らせるのが、お前の仕事やろ」、「声が小さい」、「授業が下手だ」などと連日教室まで踏み込まれ、自宅に脅迫の電話が続きました。私は「教員を指導します」と対応しながらも、教員の努力や立場をも述べました。そして刃は私に向かつてきたのです。数学の授業で、教科書の設問は「角柱を縦の平面で切るとどんな形になりますか」でした。答えは長方形です。私はさらに発展させるため「横の平面で切るとどんな形になりますか」を問いかけました。答えは多角形です。ところが翌朝出勤すると両親と生徒は職員室の中の管理職席の横に立ち、何も言わずに待っているのです。そして職員会議が始まるや否や「羽川先生は嘘を教えている」と大声で叫びだし、子供の教科書とノートを見せ、「長方形と書いてある。どこが間違いなんだ」とのしるのです。

私は机間巡視もしていませんし、ノートの点検もしていませんし、ましてや当該の生徒の答が間違っているなど言っていないし、何がなんだか分かりませんでした。校長先生の

執りなしで校長室で対応することになりましたが、「多角形は関係ない」の一点張りで解決はできませんでした。そして翌日から私の授業をボイコットし始めました。その後は筆舌に尽くしがたい毎日の連続です。家庭訪問も繰り返しましたが、結局はとでも応対できる状況ではありませんでした。解決策として教頭先生が数学の免許を持っておられたので、私の代わりをして下さることで落ち着きました。しかし保護者や生徒達の中での反応は随分と私を悩まし、退職の遠因の一つにもなったのです。

このような例は現場では枚挙に暇がありません。私は断言しますが、すべての教職員がこのような体験を何回か持っています。マスコミを含め多くの人々はこの現実を知らないと思います。だからといって教職員の不祥事や自己鍛練の不足を免罪するつもりはありません。私自身ものがれるつもりはまったくないことを付記します。

大切な使命を放棄されていませんか

私的なことも含め随分と長くなりましたが、貴方たちが報道したその見出しだけでも、「担任が障害者差別発言」(正しくは「しようがい」者と表現すべきです。「障」や「害」は表現するためといえど人間に適用すべき用語ではありません。貴方たちはそれ程までに無神経です。)
「ショックの女兒不登校」「学校、市教委は放置」「天理・差別発言」「教諭家庭訪問せず」「女兒が来れば謝る」「女兒、市長に投書」「会って話を聞いてどうかたすけて」などです。

貴方たちは真に自らの仕事を通して、「差別をなくし人権の大切にされる世の中を作りたい」と思っているのですか。私は誰が見ても差別事件だというような案件だとしても、貴方たちには扱って欲しくありません。「特ダネに得意になる人」「いたずらに興味をそそる人」「名誉のみを優先させる人」はすでに前述したように人間疎外を引き起こしており、極めて自分本位であるため、事象やましてや人を論評する資格はありません。私も含めすべての人間は人間疎外の側面を持っており(本当は持たされているのです。何故なら何人も社会的存在に位置しているからです)、そのことをしっかりと認識して常にそのこと(原因)と闘っていないければ、物の見方に客観性が存在しないと思います。

貴方たちは、マスメディアの最も大切な使命を放棄し、最も恐ろしい「人の命さえ奪う」かも知れない部分のみ優先させました。さぞかし取材中は猛々しく奢り高ぶり、天にも昇った気持ちでいたのでしょうか。何とおぞましく卑劣な行為でしょうか。踊る見出しと記事の臭味。それを有頂天に、我が意を得たりと喜ぶ貴方たちやスタッフの姿が臉にこびりつき拭い去ってはくれません。評論家(教組関係者)や大学教授の論評でより一層の真実味を持たせ、子供の知恵とは思われない投書(どこから入手したのですか)まで掲載し、真に人権侵害を世に問う行為とは思われません。

私はまだまだ未熟ですが、真に人権を語る人は極めて謙虚ですよ。今回の経緯を十分知っている教育委員会は西辻先生を処分しないとしています。事の次第のすべて把握していない私であっても、それが最大公約数的に真相だったと思います。事の事実を冷静に受け止めず、思わんばかりに振る舞った人物がいた。(その人の生い立ちを考えれば寛容の側面もある。所詮何人も社会的存在であるからです)その奥底を吟味せず歩調を合わせることと、一層輪をかけて事を世にさらけ出した公器を扱う人物がいた。責任の所在はこれらの人物にあると思います。

謝罪されるのはあなたがたです

校長先生が自死されましたが、貴方たちの記事が追い詰めたことに間違いないでしょう。西辻先生は学級の子どもたちと引き離され、そして教育研究所へ。そして該当の女兒も将来において重荷を背負うに違いありません。何とか円満に解決をと願った教育長や関係者の皆さんの努力。それ以外にもどれだけの人が悩み続けてきたことでしょうか。そして、報道が始まってさらに多くの人々が悩み苦しみました。しかし何一つ報われず最悪の結果だけが残りしました。校長先生のご家族がどれほどに悲しまれていないでしょうか。

貴方たちはこれらの責任をどうとる覚悟ですか。職を辞するか否かは、貴方たちや上司の公的立場において自ら決することです。私は冬でも汗をかき現業の仕事のアルバイトをしています。少なくとも校長先生の奥さんをはじめとするご家族、西辻先生には日参をして謝罪するべきです！ 私たちは自らに責任がなくとも、事が起これば生徒や保護者に罪をかぶせず、毎日毎日謝罪をして事態を收拾するのです。校長先生や西辻先生にどんな解決策があったのですか。もし知っておられれば教えて下さい。

さらけ出し、読者に媚びることが、貴方たちの最優先課題だったのに違いはないと思います。私の独断でしょうか。もしそうだったら返書に書き込んで下さい。正義を貫くためマスコミから追放された多くの仲間の悔しい思いを知っていますか。一方的に追い返される重苦しい人間関係を顧みる事なく、西辻先生に「家庭訪問をしていない」とレッテルを貼り、超極悪教員にしたてたのは貴方たちではないですか。そのとおりに自ら実践しなさいよ。そしてその次第を社会に公表し、関係者の名誉を正しく元に戻して下さい。人間を具と見る貴方たちはついに殺人をはじめ数々の犯罪を犯したのですよ。更生すべきは西辻先生でなく貴方たち自身です。校長先生の奥さんは西辻先生が幾度家庭訪問されても当該のお母さんのように気まずい思いをさせず、暖かく迎えるとのことですよ。(羽川 健治)

追記

必ず返事をください。校長先生の奥さんと西辻先生に見せたいのです。事を知った一人間の使命なのです。期日は一方的ですが三月二十五日必着とします。返事なき場合、貴方たちの不誠実を明らかにし、社長に直訴してでも責任の所在を求めます。

尚私のこの手紙を脅迫状と取られるなら如何様にも対応してください。受けて立つ用意があります。人権侵害に立ち向かうが如くに自己を誇示し、悩ましい事象を差別事件にうちあげ、正義ぶる貴方たちを決して許しません。その対応こそ差別を陰湿な方向へ誘導するのです。差別意識を行動に移したい、しかし世の責めからは逃れたいと思う人間に「絶対バレないようにしよう」という知恵をあたえたのです。

結論は貴方たちは一つの生命を奪い、差別の助長拡大に加担したのです。昼夜を問わず差別者をも大切な人として取り組んでいる仲間のけなげな心根に対して。差別者から反差別の運動に転身した尊敬する人々の、自らを謙遜する謙虚な姿勢に対して。それらの静かで暖かくて粘り強い取り組みに敬意を表し、事の真相を明らかにすることがせめてもの私の正義です。

小泉、石原とその憲法観

— 国家、そして憲法改悪 (二) —

自民勢力が国会をのつとつた。今、なぜ憲法「改正」か。理由は単純。国会から「護憲議員」が姿を消した。大ジャナリズムは「改憲」論を振り回す。古い古い自民党の改悪勢力が「宿願実現の時来る」と轟(うごめ)きだしたのだ。自民党結党の党是が「改憲」だったことは誰もが知りつくしていることだ。鳩山一郎、さらには岸信介にも明らかで、「ネオ」などいう「高級」な代物ではない。

現在の政治反動は中曾根第二臨調攻撃が端緒となった。国労のようになるより、組織を守る事が大事と、労働組合がまず旗を捲いた。組合旗は「赤」から「ブルー」へと変えられた。階級的労働運動を支持基盤に「護憲」、社会主義の綱領を掲げた社会党の変質・解体はその帰結。これに、国際情勢の変化が加わり、反動化保守化の流れを加速させた。

- ① 社会主義世界体制崩壊
- ② 資本主義経済による世界市場の再包摂
- ③ 世界市場の急膨張
- ④ ME・IT革命によるすさまじい生産性向上
- ⑤ 独占的大企業の競争激化である。これら総体が新自由主義といわれる国際政治・経済体制である。

現代資本主義 資本主義、もつと具体的にいえば価値増殖を本質とする資本は生まれながらにグローバルで多国籍だ。『共産党宣言』が天才の頭脳ですでに論じている。今日いわれるグローバル化の本質は、資本主義経済体制が世界市場を再び包み込んだこと、多国籍企業云々は、一九八〇年代中葉「プラザ合意・円切り上げ」以降の日本資本の特徴である。日本資本は「プラザ合意以降、それまでの「日本でつくり、世界に売る」から、「世界でつくり、世界に売る」に大転換。日本独占資本の海外投資はこれからである。

米、英、独などはすでに一九六〇年代から製造業の海外生産比率は二〇%ちかくに達しており、独占企業の多国籍化は、世界資本主義の歴史ではすでに経験済みであり、日本には三十年おくれでやってきた。

独占企業間の大競争は、世界の経済関係をレーニンの時代にカウツキーが社会主義への自然発展的機会の増大と夢想した「超独占」の時代を到来させた。競争による資本の集中・合併は帝国主義諸国で多くとも三つの巨大独占グループに収れんさせた。製造業の雄、自動車、電機等は二〜三社体制となり、航空機メーカーはアメリカのボーイング社、ヨーロッパの共同企業体であるエアバスの世界二社体制となった。通信・情報産業界は生き残り競争のまっただなかにあり、衛星打ち上げを業とするロケット産業はヨーロッパ、アメリカ、ロシア三ヶ国が覇を競う。まさに「超独占」である。

日本も例外ではない。鉄鋼、自動車、化学、紙パルプ、そして金融資本の間で旧財閥を超えて集中と合併がくり返される。ついこの間までは数社から十社が競い合った。しかし今では二社体制、多くて三〜四社が国内で覇を競い、諸外国独占企業との連携で世界市場独占化をめざす。

ME・IT革命は生産性を高め、独占企業は安い資本コスト（低賃金、低法人税、他自由な資本活動）を求め世界に基地をつくる。生産価格は低下の一途、工場は自動化、ロボット化で二四時間操業だから、供給は需要を上回る。需要と供給の関係は、製品価格の低下を促進する。

独占資本間の競争は、こうして安定的な市場支配とそれによる独占価格による超過利潤獲得を困難にする。新たな独占資本の支配まで、こうして、競争は熾烈に相闘わされていく。独占価格がなくなったわけではない。独占価格の次の段階への競争なのだ。

「利権」と国家 「グローバル」化、大競争で国境、国民国家は色彩を薄めているかのよような動きもある。たとえば、トヨタなどが法人税を諸外国並に引き下げなければ本社を外国に移してしまうぞと、政府に圧力をかけるといったようにである。日本経団連が政治献金再開にふみきったことと、グローバル化で国家なんてどうでもいいということとは矛盾する。自動車や電機では国内生産より海外生産が上回る。国内生産の約半分は輸出される。自動車や電機会社の利権はだれが守るのか。アメリカ追従で、アメリカは日本資本を守る

か。守ってはくれない。日本資本の擁護者は日本国家、戦争状況になれば軍隊だ。

財界は己の利益追求、権利死守を自民党、民主党に強制すべく政治資金をばらまく。すべては世界に拡散した利権を守り、さらに拡大するためだ。憲法「改正」への衝動は財界をも巻き込みこうしてふくらんでいく。

靖国参拝 日中外交 自民党議員の体質・思想構造をさぐる見本が小泉であり、石原慎太郎だ。小泉君は、「英霊に敬意を表し、平和を祈願するのは当然」と靖国詣でをくり返す。近隣諸国の政府首脳はそれに激怒する。自民党〇四運動方針は靖国参拝をこう述べる。

「平和への決意と哀悼の誠をささげるため、靖国神社参拝を受け継いでいく」

この方針に中国・温家宝首相は三月一四日、全国人民代表者会議終了後の記者会見で、小泉が続ける靖国参拝を痛烈に批判した。

「現在の主要な（対日関係での）問題は、日本のある指導者がA級戦犯をまつる靖国神社を何度も参拝し、中国とアジアの人民の感情を最大限に傷つけていることだ。

中国で被害を受けたのは一つ二つの家庭ではない。死者は二十万人以上いる。日本の指導者は三つの文書（日中共同声明、日中平和友好条約、日中共同宣言）を謹んで守り、歴史を鑑とし未来に向かうべきであり、再び中国人民の感情を傷つけたり、両国指導者の相互訪問や両国関係の発展に影響を与えたりしてはならない」

温首相は、靖国参拝は「両国関係の発展に影響を与えている」。だから、小泉に「これ以上、中国人民を逆撫するようなことはするな」と、一国の最高政治責任者として、きわめて異例な警告を発した。日中外交の「危機」である。小泉には「馬の耳に念仏」「蛙の面にしょんべん」の類で、「危機」感はまったくくない。不遜この上ない言句で、温首相の警告をばつさり切り捨てた。

「中国との間では、さまざまな分野で交流が進んでいる。私の訪問を中国が臨まない時に私は行く必要はない。それでも日中友好を進めていく方針に変わりはない」

中国が靖国参拝を認めるまでは、中国に行くつもりはない、というのである。小泉が首相になってまる三年がすぎた。小泉の政治姿勢は、口を開けば「改革、改革」、「日米同盟は運命共同体」というだけ。彼には一国の宰（さい）相としての知性、理念は皆無である。外交にいたっては白痴に等しい。朝鮮民主主義共和国を電撃訪問したことも、拉致問題の処理で北朝鮮とは「戦争状況」をさらに高めた。そんな人物が政界に君臨する。なんとこういう異常な状況であることか。

小泉は小選挙区制度と政党助成金で党中央に権力が集中する、まさにその時点で総理となった。二大政党制確立に向け政財官労学マスコミが国民にむけキャンペーンをおこなった。国民は日々のくらしに悪戦苦闘。さらには情報通信革命でこの本質を思索する余裕を失った。大政翼賛政治が一挙に、それこそだれも予想しなかった速度で進行した。社民、共産両党は国政への影響力を喪失し、唯一の野党となった民主の中心人物はすべて自民党脱党派。鳩山由起夫君にいたっては、「民主が政権党になるには、自民支持基盤を獲得する他ない」「中曽根さん民主から立候補して下さい」というのだ。「大政翼賛政治、ここにきわまれり」とはこのことだ。

小泉の政治的視野はこうした国内政治情勢の反映の結果として、外に向かう。だから、中国との関係が、将来の日本のゆくえに決定的な影響を与えることは考えない。大政翼賛政治の延長での外交、対外政治でしかないからである。

（つづく）

ストライキで闘いぬいた！

関東私鉄三組合

「ストライキ」がすっかり死語となった感のある日本の労働運動。しかし、ストライキは死んでいない。「知らされない」だけだ。総評労働運動の歴史的伝統を今なお強くもつ私鉄傘下労働組合は、資本の逆提案に抗し敢然とストライキでたたかいぬいた。神奈川の相模鉄道労組（一七五〇人）、東京西部地区を中心に運行するバス会社の関東バス労働組合（七二〇人）、それに京成電鉄の百パーセント子会社で千葉市内で路線バスを運行している千葉海浜交通労組（六八人）である。

これら三労組は私鉄総連の統一要求にそって要求を提出した。しかし、会社は「赤字」を口実に逆提案。各社の「逆提案」とは、関東バスでは①基本給の二〇％カット、②運転士の調整手当廃止、③六つの営業所のうち阿佐ヶ谷営業所の管理委託。千葉海浜交通では①三月三十一日付で全員がいったん退職し、退職金を精算した上で四月一日から再雇用する（全員解雇・再雇用）、②再雇用時基本給は現行七〇％、③希望退職者には特別割り増し金支給。相模鉄道では昨年九月とつじよ「中期経営計画」を発表。内容は①バス事業の全面分社化、②総額二十一億円分の賃金カットへ「協力」、具体的には①賃金および一時金カット、②各種手当で見直し、③労働時間延長、④社員食堂、社宅廃止など十八項目の「合理化」案である。

相模鉄道労組は今春闘で、①「中期経営計画」にともなう合理化案件、②〇三秋闘の積み残し案件―雇用延長制度確立、バス職場契約運転士の正社員化、家族給の第三子以降引き上げ、子どもの看護休暇有給化、③〇四春闘要求―一人平均八千円賃上げ、昨年同月数の年間一時金―の三つの課題をストライキでたたかった。組合側の譲歩―三億五千万円分の賃金カット、住宅手当五〇％カット、福利厚生施設廃止―にも会社は組合に全面屈服を迫った。

これに相模鉄道労組は〇四年三月二四日、「闘争宣言」（資料参照）を發し、三月二七日、二十六年ぶりの単組独自のストに突入したのだ。ストライキは事前の周到な準備で整然と決行され、七時十分スト中止指令を發出、八時五〇分、主要三課題闘争妥結が決定された。賃上げは実現できなかったが、①臨給五・七二五ヶ月、②契約運転士正社員化、③バス分社提案取り下げという大きな成果を勝ち取った。三月二八日に発せられた「妥結見解」は―

「二六年ぶりの単組独自ストライキを決行する中で決着した内容は、組合員の誰もが経済的なプラスはなく、賃上げゼロも含めてひとり一ヶ月一万円から五万円の切り下げを強いられる痛恨の内容であった。

しかし、今回の闘争で私たちが守り、獲得したものもある。それは、「労使対等原則」を守り、理不尽な処遇を迫られていた三五名の仲間を切り捨てることなく、最後まで全組合員が強固な団結によって闘い抜くという「労働組合の原点」を貫きとおしたことである。この成果は、決して数字では表せるものではなく、目に見える評価をすることはできないが、相鉄労働組合が組合員のための労働組合として、将来にわたる展望を確信しあえたことである」

千葉海浜交通労組は千葉県の私鉄で四月二六日と三十一日、唯一ストライキに突入した組

合だ。しかし、交渉はまだ平行線をたどっている。関東バス労組も三月二六日にストライキに突入。その後の交渉で①分社化取り下げ、②賃上げを勝ち取った。

◆資料 相模鉄道労働組合◆

闘 争 宣 言

今集会で、私たちは中期経営計画及合理化闘争、○三秋闘、○四春闘の全面勝利を誓い合った。昨年九月、相鉄経営は中期経営計画に基づき、大幅な人件費削減、全事業の分社を私たちに提案した。人件費削減提案は一ヶ月一人あたり九万八千円カットに相当する常軌を逸したもので、これが実施されれば生活は破壊し、安全輸送の確保が困難となることは自明である。さらに、全事業分社は、利用者の利便性よりも個別事業の収支のみが優先されることを意味している。これは日ごろから私たちが主張する「鉄道、バス、兼業部門の一社体制による有機的な地域総合サービス実現」に逆行するものである。

経営側の中期経営計画合理化の根柢は、販売用不動産と固定資産の評価減に伴う特別損失処理に端を発している。これら物件の取得判断に労働者の関与は一切なく、まさに自ら生み出した損失負担を労働者に押し付けるものであり、断固許すことはできない。

いっぽう、○三秋闘で私たちが要求している契約労働者の社員化などは長期にわたる低賃金、不安定雇用を解消させ、安全輸送の基盤を確立するもので労使の共通課題といえる。○四春闘要求でも、すでに多くの私鉄労使が妥結している実態から私たちは賃上げ要求をそのレベルまで下げている事実を経営側は真摯に受け止めなくてはならない。さらに、今日まで二度にわたって手当の大幅削減、福利厚生施設の廃止を受け入れた私たちの譲歩案に対し、あくまで「提案の完全実施」に固執する経営側のかたくなな姿勢は、社会的に糾弾されるべきである。

私たちは、自らが示した譲歩を越える選択はないことを決意した。本日ここに全組合員と家族、支援労組の強く熱い決意と連帯も背景に、勝利するまで闘うこと！ 不満な回答には整然とストライキに突入することを宣言する。

二〇〇四年三月二四日 ○三秋闘・反合理化闘争・○四春闘勝利！ 相鉄労組総決起集会

巨大ジャーナリズムの憲法観

五月三日、全国紙は社説に憲法「改正」問題を掲げた。

各紙の見出しは、「まず改正の目的を語ろう——二世紀、どんな国になりたいか」（毎日）、「多彩な民意を直視して——憲法記念日に思う」（朝日）、「国家、国民、そして——憲法記念日に考える」（東京）、「憲法改正の機は熟しつつある」（日経）、「憲法二十条にみる非現実性と没道理」（産経・正論）、「新憲法」を政治日程に乗せよ」（読売）。

旧い旧い改憲論の見本が産経。ボケ老人（東大名誉教授小堀桂一郎）は「成文憲法の条文の字句以前に、我が国には不文憲法とでも呼ぶべき二千年来の『国體』とは英語に訳してみればいずれも同じ概念である」と亡霊を復活させる。

これを「亡霊」と一笑に付せないのが今日の改憲状況だ。自民党憲法調査委員長・保岡興治が「憲法には日本の歴史や伝統、文化、日本のアイデンティティーのようなものが、象徴天皇以外に一切ない。」「日本は『和』の国であり、美しい自然や生きとし生けるものが仲良く調和して生きている。」「これらの要素を盛り込み、国民が誤りと愛着を持てる憲法にすることが、改正の重要な柱」と昨年十二月に述べたことを本誌『和』の政治だつて』（第八九〇号、○四年一月二日）で紹介、批判した。ボケ老人の主張は自民党改憲論者のいう「日本の歴史、伝統、文化」とは、「国體」論に他ならぬことの証明だ。

第三次憲法改悪議案をのせた読売は、①国民の憲法意識の大きな変化、②憲法の規定と

現実との乖離、③民主党の動向を根拠に、憲法委員会を超党派でつくり、憲法改悪を政治日程に乗せよと主張する。「改憲」論はひろまった。しかし、各種の世論調査は憲法九条改悪に、いぜん反対論が根強い。たとえば反対論は朝日六〇%、NHK三九%、沖縄各紙四〇%に、賛成は三一%、二八%、二九%というようにだ。

世論の動向をなにより重視する日経は、改憲を国民の政治意識「改革」の場とし、まだ反対論が多数派の九条に第一項は維持、第二項は自衛権明記、第三に国際貢献、国際協力新設、さらに国会法改正、国民投票法制定を主張する。「わかりやすい憲法」を云っているのはお笑い草だ。

朝日は「九条改正には『反対』がまだ多数派」との観点から、大いに議論。毎日はやはり「九条改正には有力な反対意見」、国連決議に依拠できるかどうかは不明とし、「論憲が現実味を帯びる」と、表題を目下の課題とする。

東京はイラク人質問題での生々しい議論を「国民の救援は政府の責務」、「おれに反対すると守ってやらないぞ」とはガキ大将の論理」と憲法改悪の背景にある国家主義をきっぱりと批判する。これは一つの見識で、さらに追い討ちをかけるかのように「国家より国民が先というのは憲法を考える時の基本」と主張する。

主権在民、国民主権は、マグナカルタ、アメリカ独立戦争、フランス革命、社会主義国家成立とともに世界の常識となった。支配者、支配階級に抗し、彼らを打倒、勝利すること、被支配階級が己の主張を支配階級に押し付けてきたのが、権利の章典、憲法である。

◇ 読者からのおたより ◇

「人らしく生きようパート2」完成試写会 理不尽な首切りは許せない―四党合意、最高裁敗北をこえて国労闘争団・家族は一八年目の歩みを続けている。厳寒の北海道、光あふれる四国、そして東京を舞台に物語は展開。どんづまりの状況の中で這いあがることはできるのか。大きな反響を生んだ「人らしく生きよう」のパート2。ビデオプレス制作・二〇〇四年九七分 <http://www.vpress.jp/>

〔東京〕★五月一七日(月)一八時三〇分開演(一八時開場) 中野ゼロ視聴覚ホール

〔大阪〕★五月二二日(金)一九時 吹田市民会館(JR京都線「吹田」駅前)、★五月二二日(土)一八時三〇分、メセナ枚方(京阪「枚方市」駅前)、★五月二三日(日)一四時、堺総合福祉会館(南海高野

線「堺東」駅前)、「上映後出演の闘争団のトークあり、当日千円(前売八百円)、学生・障害者割引あり、連絡先ユニオンゼンろうきょう電話06・4793・0735) (ビデオプレス) ムネオの近況 ムネオの近況『道新』四月二二日付社説と二〇日の記事送ります。(根室・S)

編集部より このおたよりにぞくぞくご報告いただいています。感謝。それによりますと、ムネオは二〇日に函館市内で記者会見し、「各地で参院選に出るべしとの強い声を受けた。後援会のみなさんの思いを大事にしたい」と立候補声明。道選挙区(改選数二)に出馬。正式発表は五月十日のようです。(この日出馬を表明しました) 稚内のKさんからのムネオ報には「ムネオがいさつ回りに歩いている。明るく、元気だった」とも。

すごい反響 三人の「人質」チラシは札幌市三越前大通りで二千枚はけました。マスプリで倍くらいはつくられていると思います。今井宅は私の自宅のうらでマスコミの車とKの車が自宅そばで二四時間止まっています。このことに関して情報を知りたい場合は下記までFAX下さい。(札幌・T) 教育労働者攻撃 いつもお世話になり感謝しています。さて、今日教育を破壊するため教職員への攻撃が強まっています。しかし、どのような教育をする教職員が攻撃されているのか、その教育の中味については、あまり知られていないのではないかと頭を悩ましています。そこで二つの実例の例がありますので貴社へ送付しようと思いまとめてみました。全ておまかせしますので有効に使っていただけないでしょうか。

編集部より 資料、落手いたしました。今号で掲載しました。さらにご活躍を!

質問 いつも通信、ありがとうございます。去年から気になっていましたが誌代は長いこと支払っ

ていないように思うのです。二〇〇四年八月まで済み"になっていきますが調べて下さい。振込用紙を送付して下さい、よろしく。八九八号の「日教組のご意見、同感です」。情けないです、足もとから運動をしなればと思っています。「文中の父兄」を保護者としてください。(長崎・N) 編集部より ご丁寧なお便りに心から感謝。八月まで納入されております。近く振替用紙入れさせていただきます。長崎での生活、いかがでしょうか。

おめでとう 西本さん 目の前の子どもたちは宝物／いろんな子がいておもしろい／人それぞれ悩みがあるけれど／子どもを見たらがんばれる 自己申告書 指導案 様々な報告書／書類に追われる毎日／時間や気力や体力は／子どものために使いたい それなのに 今の学校は／どうしてこうもいそがしい／ひとりひとりの子どもとかかわれず／ストレスたまるばかり だから 僕らは／元気を出すたい／ここに来たんだ／ひとりひとり 夢と希望持って／その夢をつかみとるために 僕らは／手をつないでがんばろう 伝えてほしい 僕らの声／誰もみんな そう臨んでいる／全力応援 西本さんを必ず勝利だ ナンバーワン (西本章後援会)

編集部より こんなメッセージに支えられ、当選おめでとう！ 新しい仕事にさらになんばって！
現在五十肩 先日は、北海道の闘争団めぐりをしたそうで、我々が送り出した水道橋の伊藤君、市ヶ谷の野沢君が合流した、との報告をうけました。私も、何かと健康に不安を感じながら、(現在五十肩で腕がしびれていまして、ひどい字になっていますが) 何とかやっています。三月二〇日は、柏駅頭で新社会党柏、野田総支部、女性会議でイラク戦争反対の行動を行いました。雪まじりの寒い雨の日でしたが、反応も敏感で、有意義な取り組みでした。わずかですが、残金はカンパにして下さい。奥さんも体に気をつけて。(千葉・I)

編集部より カンパ感謝です。最近はどうな本お読みですか。「歴史研究会」参加したいですね。**平和守りぬく** 私には三人の子どもがおりますが、それぞれ成長をする中で自分の将来を考えはじめるようになりました。今、ここで民主党が二大保守政党政治とも言える波に飲み込まれ、憲法が改正され日本が「戦争のできる国」になるとしたなら、私たちの子どもの将来を親の私たちが本当に守ることができるのでしょうか。社民党に不足不十分なところがあることは自覚しつつも、ここで「憲法改正」論議を傍観しているわけにはいきません。私は、「憲法九条」が果たしてきた歴史的な意味と、現実的に日本の平和を守るためにどうするかということを自らに問いかけ、そして共にこの時代を生きる皆様と真剣に考えたいと思います。(長野・N)

ピンハネ 全国の職業安定所の求人の二八%が請負労働者、派遣も六%で計三四%。平均時給千六百円、ただしピンハネ分は五百円。百人抱えれば一〇〇人×五〇〇円×八時間×二二日！(T・G) **編集部より** 昔の手配師の復活！ それが「労働の多様性の本質」です。

地区労でオルグ 三月八日、地区労による職場オルグ(三組合九職場)が取り组まれました。その目的は「置き去りにされている組合員の気持ちを取り上げ、改善のために努力する労働組合づくり」にあります。職場オルグで気持ちを集約し、改善の取り組みづくりで各組合と連携をはかり、機関紙発行で組合員に報告して、交流会を開き全体化をめざすものです。

組合員の率直な気持ちとは、低賃金の怒りあり、先行き不安あり、解雇時の対応が求められ、組合への期待も言われています。職場に「春闘」はありません。しかし、組合員には大きな力があり (茨城・内原地区労)

「働き続けるために」という気持ちがあるからです。 **編集部より** 各職場の状況読ませていただきますと、上部からの指示の「消化」はあるようすが、つくりだしていく独自の強化が必要なようですね。

第十回定期総会 「解雇撤回・JR復帰」の闘いは、最高裁判決により、新たな闘いの構築が求められ、「JRに不当労働行為なし」の判決以降、ますます「鉄建公団」への責任追及が重要な位置づけとなっています。今年も平和運動フォーラムとの共催で記念講演と十周年を迎えた「生活者労働者協同組合」の定期総会を開催します。 (国労深川闘争団)

編集部より 支援の仲間は闘争団の積極的働きかけを待っています。
入院してみてもーバリアフリー 足をけがして思いがけなく当病院に入院しました。入院してみても付いたのですが、普段何気なく歩いていた院内が、患者の立場、それも松葉杖を使用する不自由な体となるとまったく違って見えるのです。正面玄関の小さな段差、ロビー等に敷いてあるゴミ取りカーペットと床との段差、冬季節閉めてある防火扉を通る時の手間等々けこう不便なところがあります。平らだと思っていた病棟でも多くの事を感じました。病棟も洗面所が一つ所しかなく、洗面道具を持っていくにはとても遠く感じました。東西二ヶ所あるとよいのではないのでしょうか。室内が広い身障者用トイレの数も少なく思いました。車イスに乗ってわかつた事は、院内にあるカウターのほとんどが高いことでした。たった三泊四日の入院生活でしたが多くの改善点が見えてきました。

編集部より そうなんですよね。バリアフリーを考える原点なんですよ。

(医療労働者・M)